

## ◇各教科等の授業改善に向けた具体的な方策

### 【理科】

<p>■生徒の状況</p>	<p>(1) 理科に対する興味・関心が高さにばらつきがあるが、実験・観察の活動は意欲的に取り組む。</p> <p>(2) 科学的思考や推論が苦手な生徒、自分の考えをまとめ表現するのが苦手な生徒がいる。</p> <p>(3) 話し合いの活動は意欲的に取り組むが、発表などが苦手な生徒がいる。</p> <p>(4) 家庭学習の習慣が定着せず、基礎基本が習得できていない生徒がいる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>(1) 体験を通じて学ぶことにより、理科に対する興味関心を高める。そのためにも実験・観察を多く取り入れ、見通しをもって主体的に実験を進める力を育む指導が必要である。</p> <p>(2) 実験結果がなぜそのようなものか、何が分かるのかを考えさせることで科学的思考を養う指導が必要である。予想や仮説を立て、推論する力を身に付けるとともに、それを表現する力を付ける指導が必要である。</p> <p>(3) 協同学習を取り入れ、互いに学び合う中で発表のスキルを学び、身に付ける必要がある。</p> <p>(4) 基礎的な計算力、グラフを書く力、読み取る力を定着させるため、小テストや問題演習の時間を取るともに、家庭学習を促す課題を出す必要がある。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p><b>1 基礎学力の定着</b></p> <p>(1) 関心・意欲を高めるため、身近な題材と関連付ける学習を行い、実験・観察を多く取り入れる。</p> <p>(2) ねらいをしっかりと把握させ、振り返りを行い、知識を定着させる習慣をつける。</p> <p>(3) こまめに小テストを行い、基礎の定着を図る。</p> <p><b>2 1を支える家庭学習の推進</b></p> <p>(1) 実験レポートや学習プリントを家庭学習の課題にする。</p> <p>(2) こまめに問題演習の課題を出す。</p> <p><b>3 授業における思考力・判断力・表現力の育成</b></p> <p>(1) なぜそのような実験結果になるのか、実験結果から何が分かるのか、発表の場面を設け、授業展開を工夫する。</p> <p>(2) 協同学習により、まわりの様々な考えを聞きながら自分の考えをまとめ、表現する場をもつ。個人の発表、班の発表の時間をとる。</p> <p>(3) 探究型、問題解決型の形態を取り入れる。課題に対して知的好奇心を刺激しながら興味をもたせ、集中的に探究する授業を行う。</p> <p>(4) 課題により、個人の探究、班の探究と枠組みを適宜変え、様々な思考プロセスを経験させ、思考力を養う。</p> <p><b>4 3を自ら伸ばしていくための主体性の育成</b></p> <p>(1) 適正な評価を生徒に還元し、改善点を明確にする。</p> <p>(2) 評価の観点を明確にし、相互評価、自己評価を通して、主体的により良いものを目指す姿勢を育成する。</p> <p><b>5 ICT機器を活用した授業実践例</b></p> <p><b>(1) 基本的な考え方</b></p> <p>①電子黒板・タブレット端末を用いて現象・事物の視覚化を行うことで、理解や認識をスムーズにする。</p> <p>②タブレット端末や書画カメラ等を用いて、手元の器具を拡大して見せたり、班の発表の際に利用し、理解を深め、相互の意見交換に役立てる。</p> <p>③デジタル教科書を活用し、課題の共有や把握、動画の視聴など、教材としてより効果的な活用を行う。</p> <p><b>6 小中一貫</b></p> <p>(1) 研修会等で情報交換することで、共通の理解を図り、小学校での理科の取組を中学校での授業内容、授業改善に生かす。</p> <p>(2) 小中連携授業を小学校で実施する。生活科・理科の9年間の継続した学びを踏まえ、授業内容を検討する。</p>